（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	ののはな港南			
○保護者評価実施期間	2026年　3月　1日		～	2026年　3月　27日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	37	（回答者数）	23
○従業者評価実施期間	2026年　3月　3日		～	2026年　3月　17日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	14	（回答者数）	14
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　3月　31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童指導員・保育士に加え、リトミック講師やSSTスキルを持つ職員が在籍しており、子どもの発達段階や特性に応じた支援を行っています。 一つの視点だけでなく、複数の専門的な視点から子どもを捉えることで、より実態に合った関わりができる体制となっています。	日々の支援の中で気づいたことを職員間で共有し、それぞれの専門性を踏まえて関わり方を検討しています。 一人の子どもに対して複数の視点から支援を考えることで、より適切で無理のない関わりにつなげています。	専門的支援の質をさらに高めていくため、外部研修への参加や内部での共有機会を増やし、職員全体のスキル向上を図っていきます。
2	保護者の方々と密接に連携しながら、子どもたちの成長や日々の活動の様子を共有することを大切にしています。そのため、【提供記録の充実】に努め、保護者が安心して子どもを預けられる環境づくりを進めています。	提供記録の内容を充実させるとともに、写真なども活用しながら、活動の様子が具体的に伝わるよう工夫しています。 家庭でもイメージしやすいような情報共有を意識しています。	保護者向けの相談会や勉強会を実施し、家庭での関わりにも活かせる情報提供の機会を増やしていきます。
3	職員間の情報共有が日常的に行われており、支援の方向性が統一された状態で関わることができています。 そのため、担当職員が変わっても大きなズレが生じにくい体制となっています。	専用システムやスプレッドシートを活用し、日々の支援内容や気づきをリアルタイムで共有しています。 また、提供記録と支援計画を紐づけて確認できるようにし、一貫性のある支援を意識しています。	全体ミーティングだけでなく、チームミーティングを多く実施し、チーム全体での支援の統一を図ります。 法人内の他事業所の取り組みも共有し、良い取り組みを積極的に取り入れていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもたちとの交流の機会が少なく、外部との関わりが限定的となっています。	安全面の確保や、既存利用児童への対応を優先した結果、外部との関わりを広げる余裕が少なかったことが要因です。	まずは関係性のある事業所との交流から段階的に広げていき、無理のない形で地域との接点を増やしていきます。
2	職員一人あたりのプログラム担当数が多く、準備と日々の支援が重なることで負担が大きくなっている状況があります。	役割分担や業務の整理が十分でなかったことにより、特定の職員に負担が集中していました。	チームでプログラムを検討・作成する体制へ移行し、業務の分散と効率化を図ります。 あわせて、支援の質を維持しながら無理のない運営を目指していきます。
3	保護者会が未開催であり、施設の状況や考え方を直接伝える機会が十分とは言えない状態です。	日々の療育提供を優先する中で、開催の準備や時間の確保が難しかったことが要因です。	活動報告を兼ねた保護者会を開催し、施設の取り組みや子どもたちの様子を直接お伝えできる機会を設けていきます。 また、継続的に実施できる形を検討していきます。